

espar

制作会社様向け技術資料

rev.201906

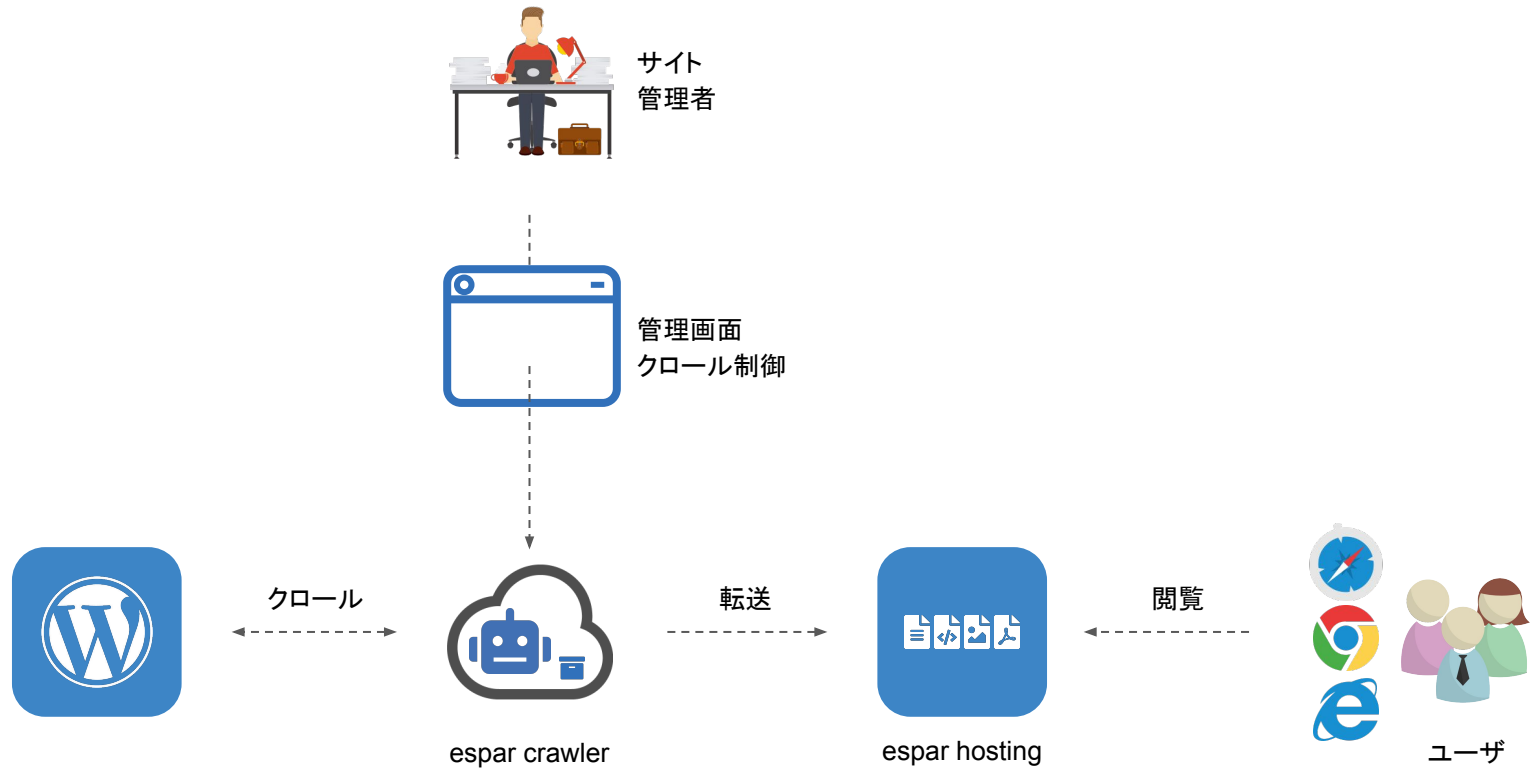
Table of contents

1. 基本構成と導入プロセス
2. 静的化と公開サーバへの転送
3. 公開サーバでの制約・留意事項
4. セキュリティ
5. 導入時のポイント

Table of contents

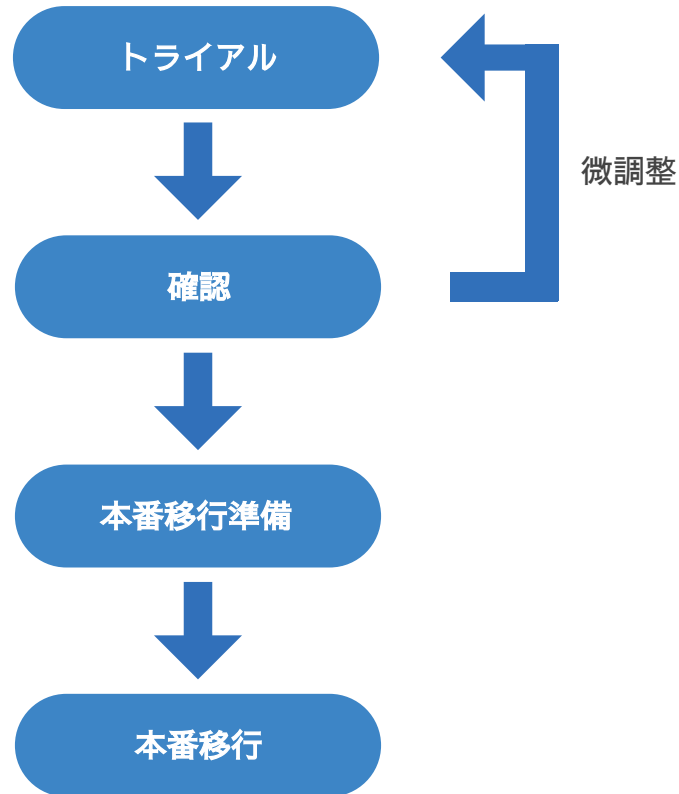
1. 基本構成と導入プロセス
2. 静的化と公開サーバへの転送
3. 公開サーバでの制約・留意事項
4. セキュリティ
5. 導入時のポイント

Basic architecture



espar導入後は、「サイト公開」の役割は espar hosting が担うようになります。

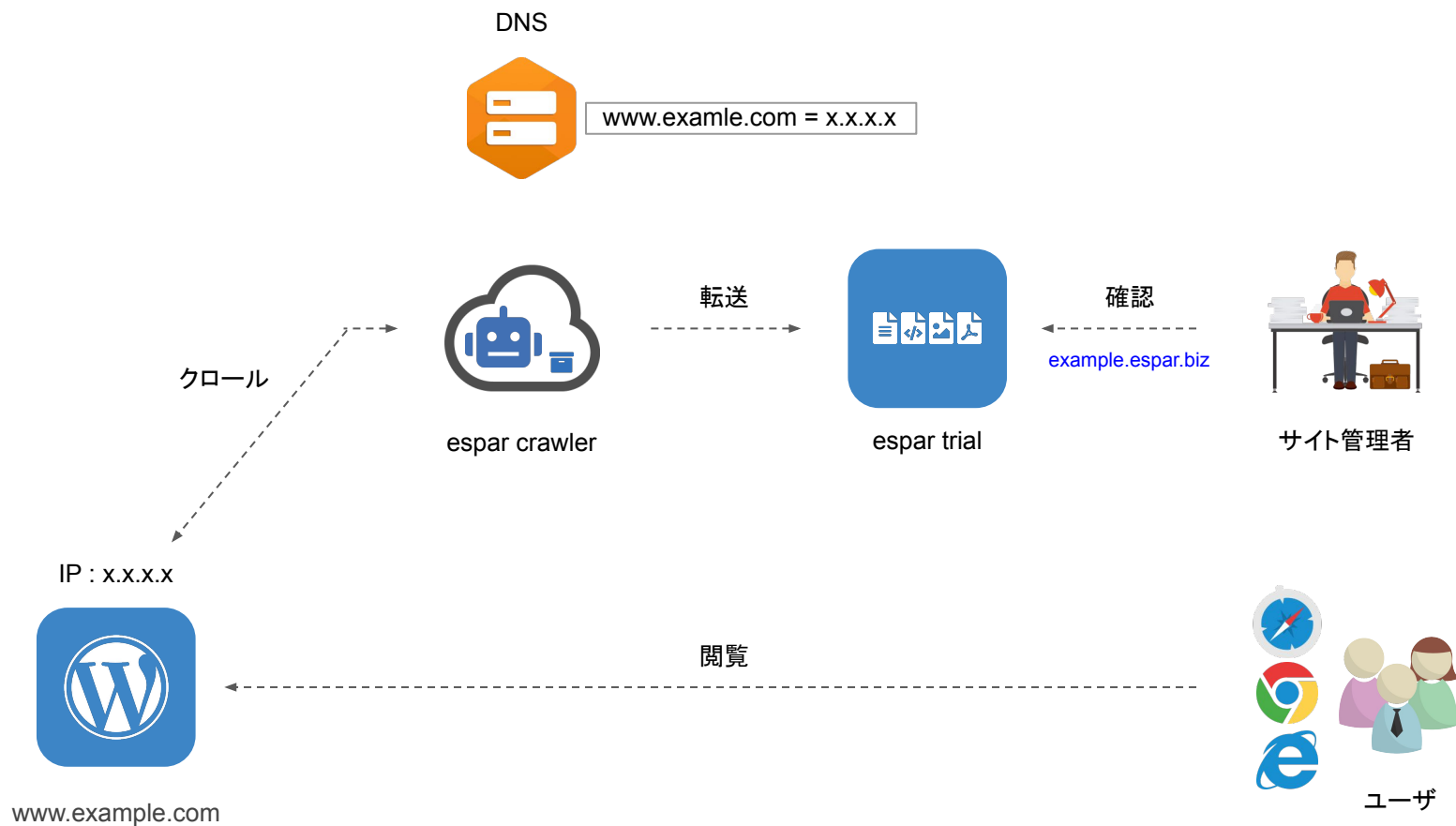
Process



espar の導入に当たり、まず当社でトライアル環境を構築します。静的化によるサイトの再現ができているかどうかを御確認を頂いたのち、本番移行となります。



Trial

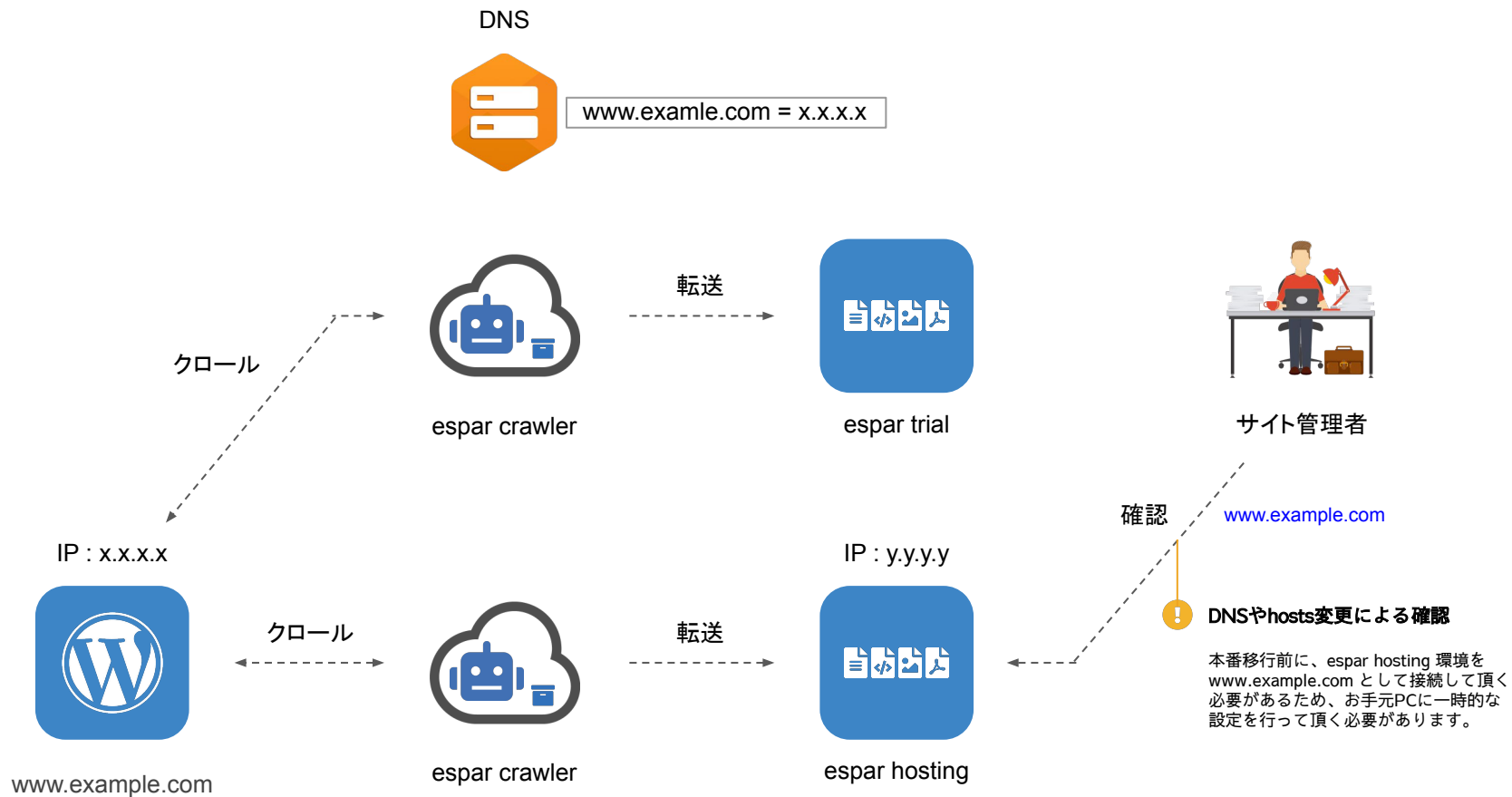


WordPressサイト (ホスト名を `www.example.com` とする) を espar crawler でクロールし、確認用のトライアル環境を構築します。トライアル環境には サイト識別子.espar.biz というホスト名を割り当てます。

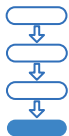
この間、ユーザは従来と変わらず WordPress サーバを直接参照しています。



Preparing



トライアル環境で正常に静的化ができていることを確認できれば、本番移行の準備を行います。当社で公開用ホスティングサーバ (espar hosting) に同じ設定で環境構築します。完了後、公開用ホスティングサーバを www.example.com として接続し最終確認を行って頂きます。



Transition

DNS



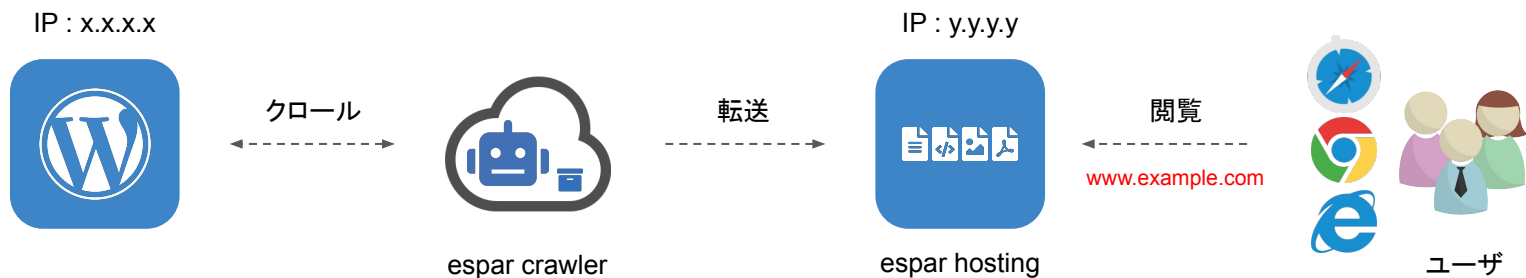
www.example.com = x.x.x.x



www.example.com = y.y.y.y

❗ 事前に TTL を短くする必要があります

IPアドレスの変更と同時にTTLを短く設定しても意図した通りには反映されません。移行前に十分に余裕をもって、あらかじめTTLを短く設定しておく必要があります。300秒程度が推奨されます。

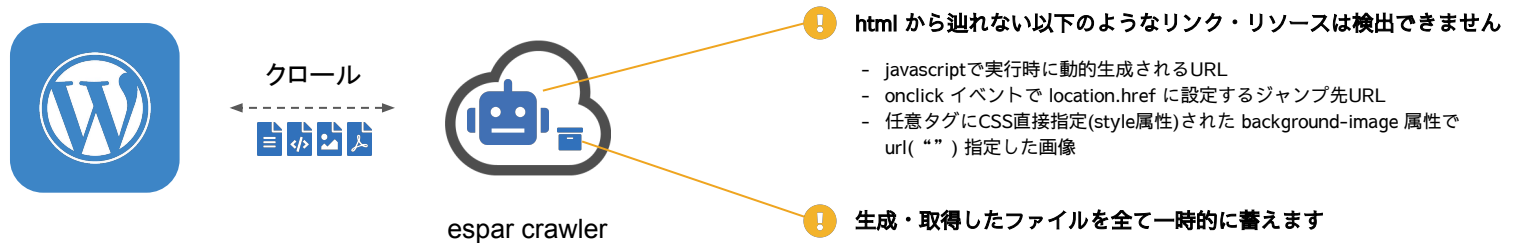


本番移行時は、DNSレコードを espar hosting 側に変更することのみです。DNS変更後、閲覧用のアクセスが WordPressサーバ側に直接届くことはなくなります。

Table of contents

1. 基本構成と導入プロセス
2. 静的化と公開サーバへの転送
3. 公開サーバでの制約・留意事項
4. セキュリティ
5. 導入時のポイント

Crawling

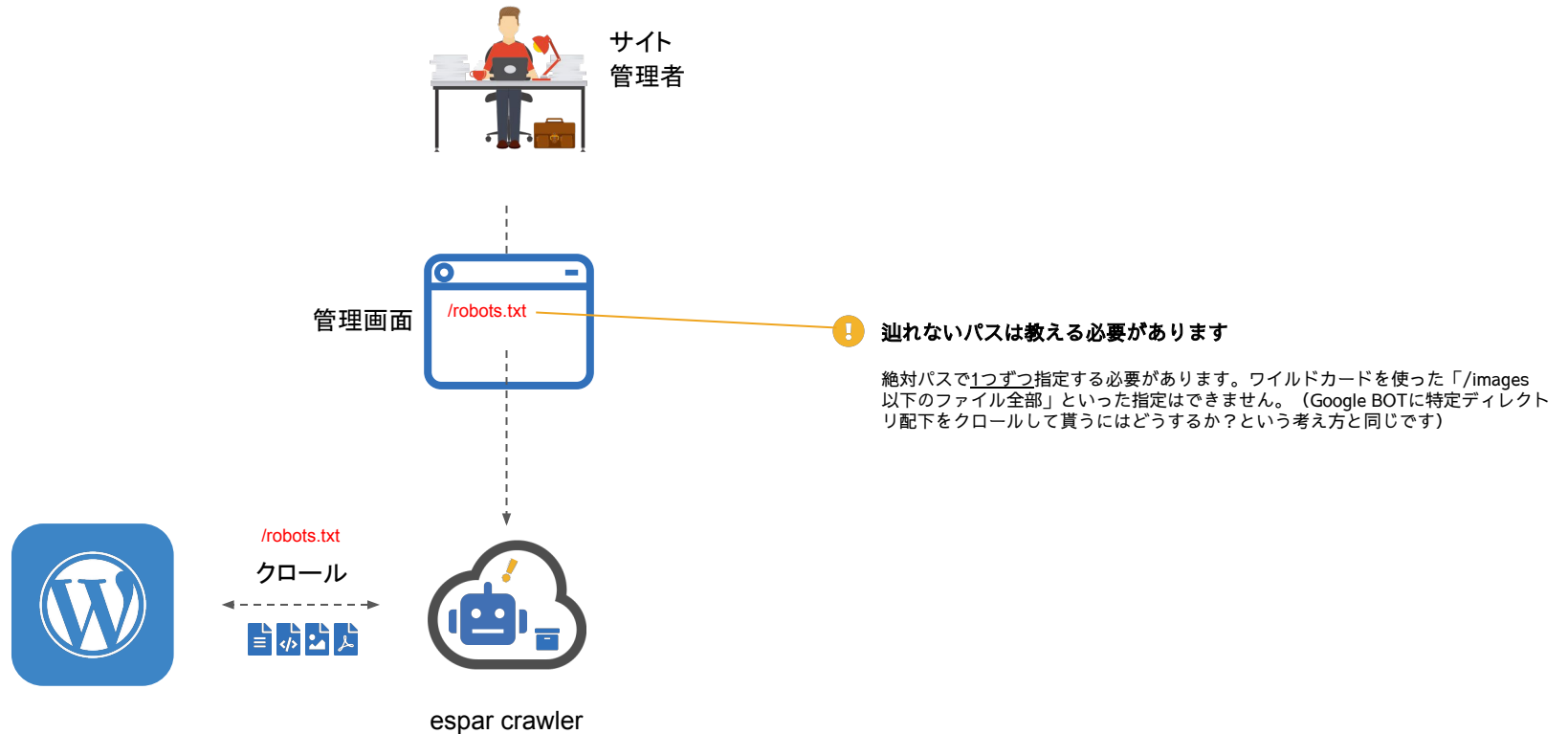


espar crawler は、WP サイトの外部から WP にアクセスする Web サイトクローラーです。(Google BOTのようなもの)

サイトのTOPページをスタート地点にして、html 中の a タグを頼りにサイト内の全リンクを解析し、全ページ html ファイル化していきます。同時に html から参照されているリソース (画像, 動画, 音声, CSS, PDF, JS 等) も取得します。html の DOM 構造内に記述が現れないページやリソースは取得対象になりません。

espar crawler は生成した html や取得したリソースファイルを、クローリングが終了するまで保持します。

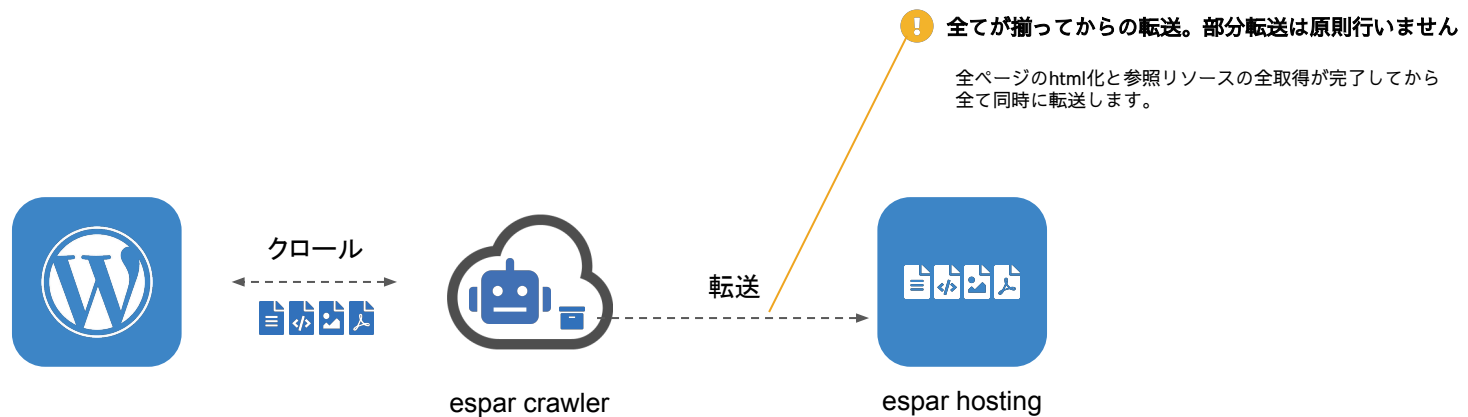
Crawling



TOP からの html リンクでは辿り着けないがサイト公開に必要なファイルが存在する場合、管理画面で当該 URL を「追加パスとして指定」します。espar crawler は追加パスの指定に従いファイルを明示的に取得しにいきます。例えば、以下のようなファイルが対象となります。

- robots.txt
- sitemap.xml
- Google SearchConsole や facebook 広告の初期設定時に必要なドメイン認証用htmlファイル

Transfer

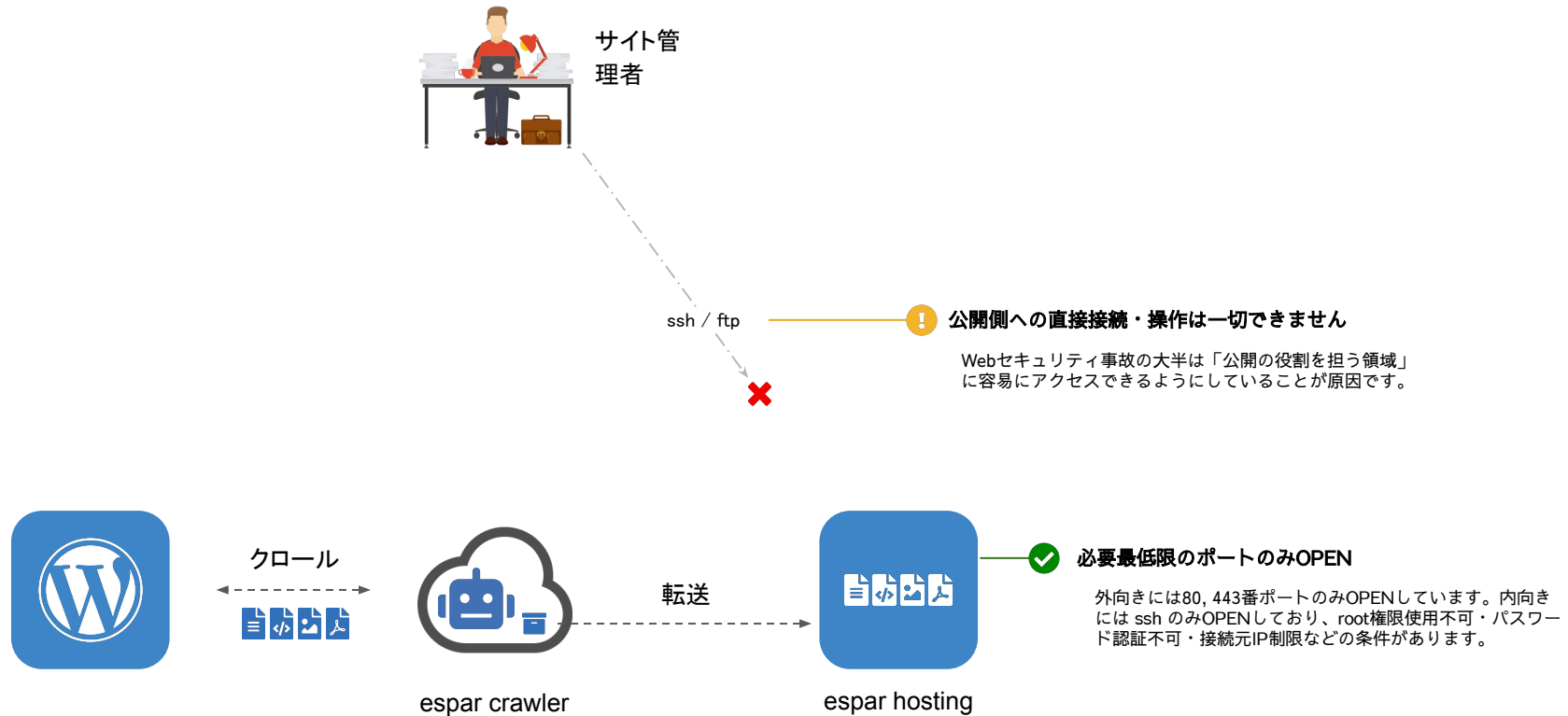


クローリングを全て終えたあと、espar crawler は一時保管した内容を公開用ホスティングサーバ (espar hosting) に転送します。

Table of contents

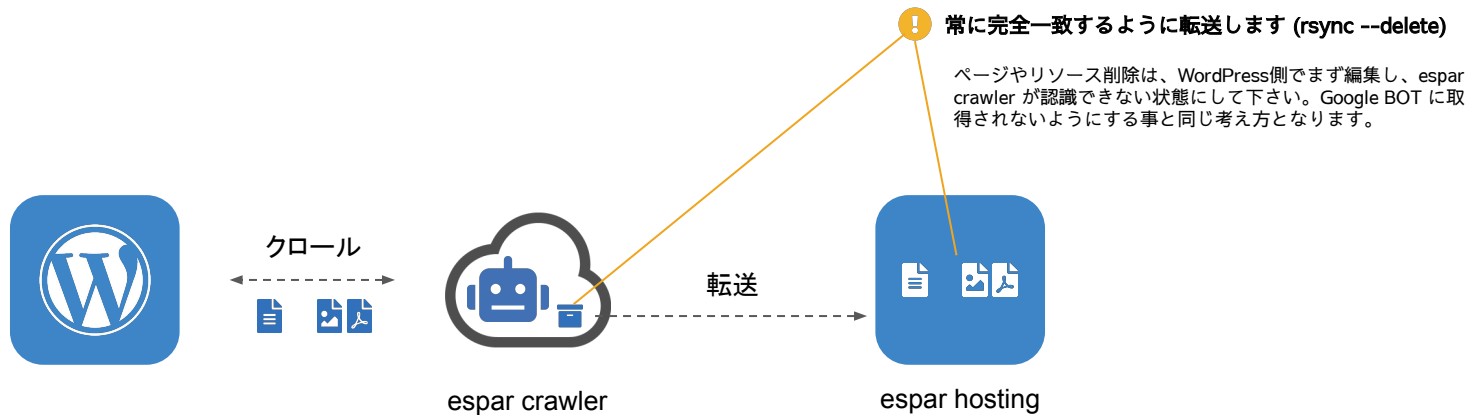
1. 基本構成と導入プロセス
2. 静的化と公開サーバへの転送
3. 公開サーバでの制約・留意事項
4. セキュリティ
5. 導入時のポイント

can't directly access



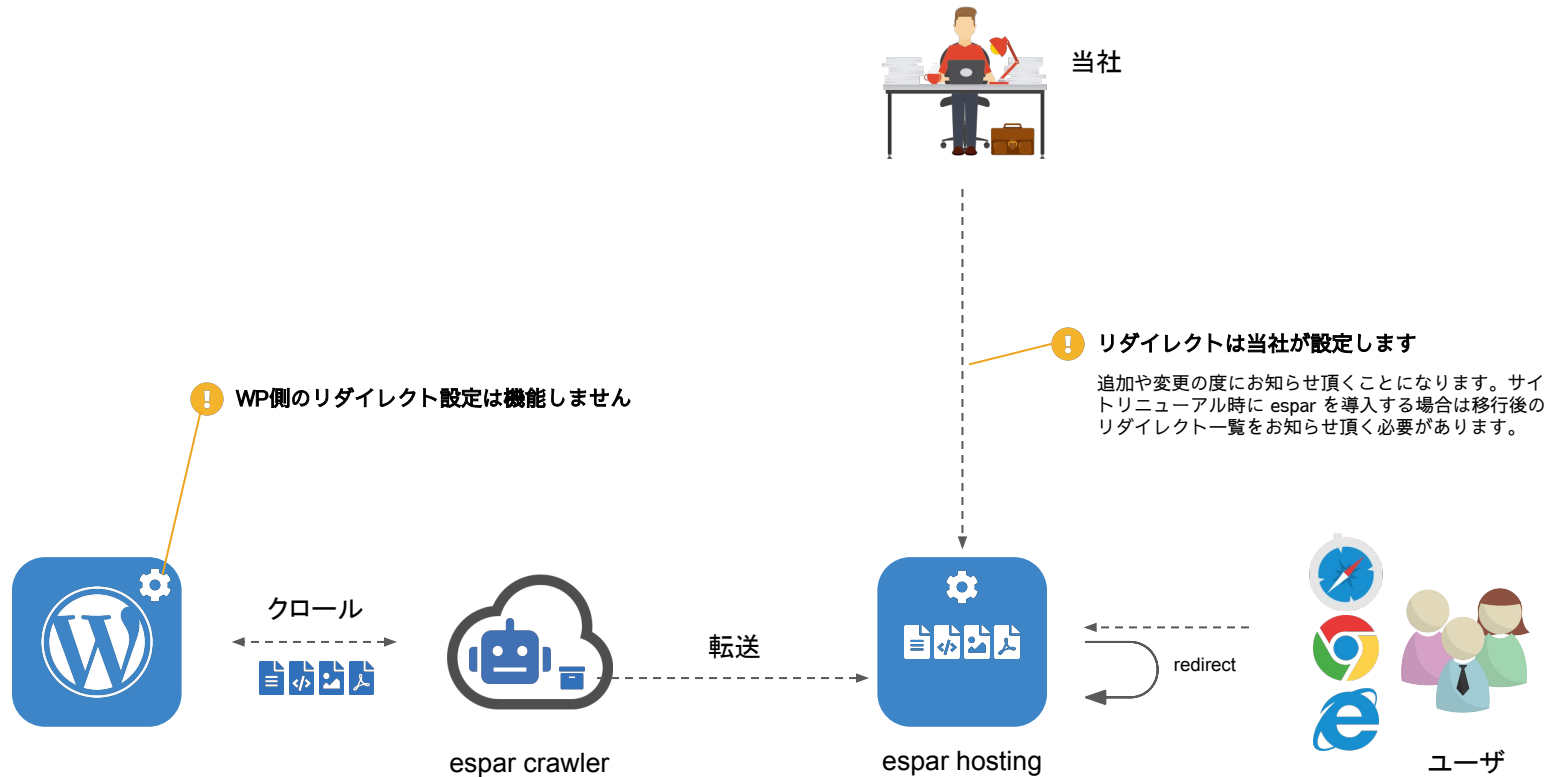
セキュリティ対策のため、espar hosting は「deny all, each allow」の原則（全てのアクセスを一度拒否し必要最低限のみを許可する）で設定を行っています。直接 ssh や ftp で接続して頂くことはできません。

Deletion



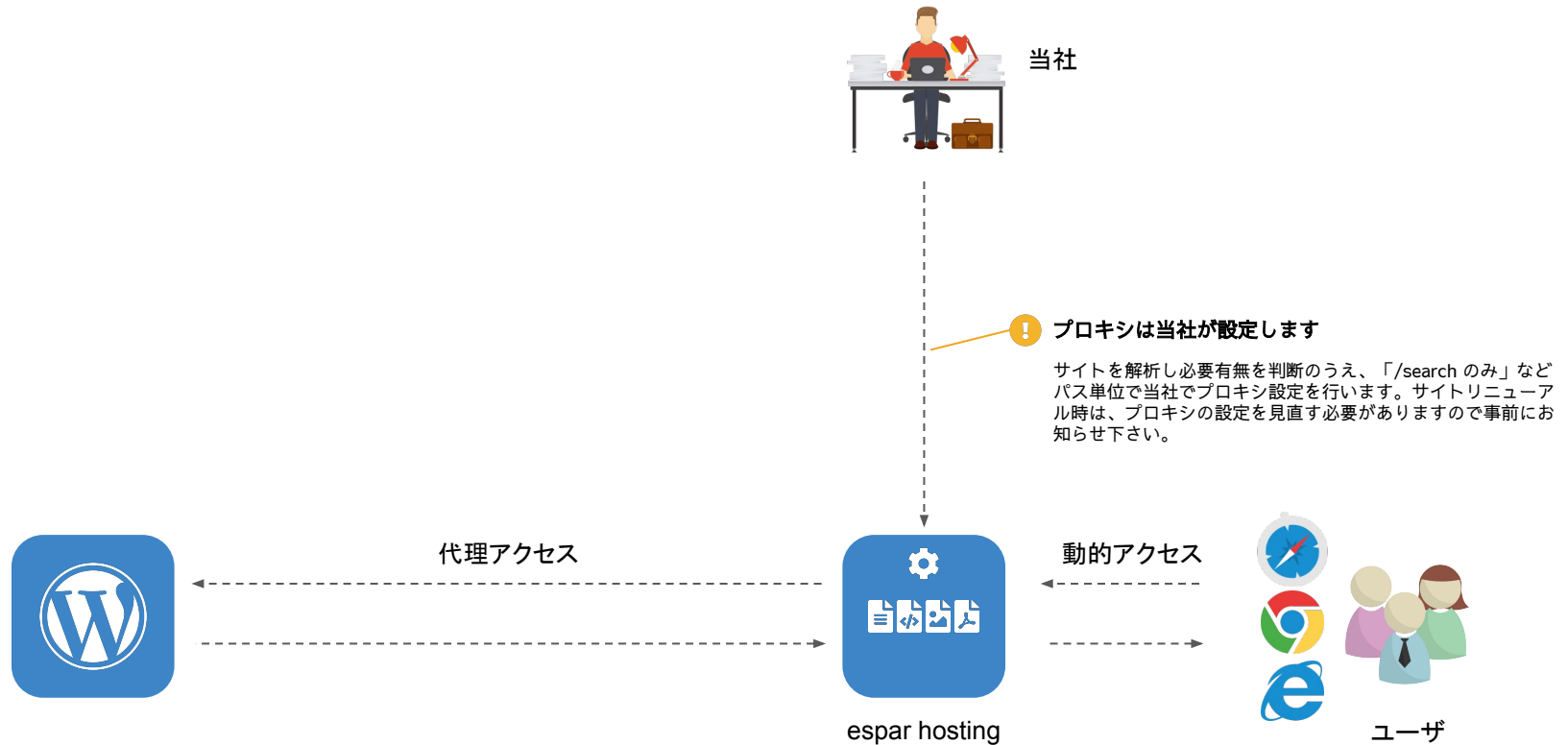
一度公開したページを削除したい場合は、当該ページへのサイト内リンクが現れないようにWordPress側を編集し、そののち再度全体をクローリングします。つまり、削除したいものを espar crawler が認識できないように WordPress 側を編集した上で、全体を再クローリングする必要があります。

Redirect



リダイレクトの設定は全て公開用ホスティングサーバ (espar hosting) 側で当社が行います。WordPress サーバ側でリダイレクト用プラグインを使用したり、リダイレクト設定を直接行っても反映はされません。(ユーザーのアクセスがWordPress側には届かないため)

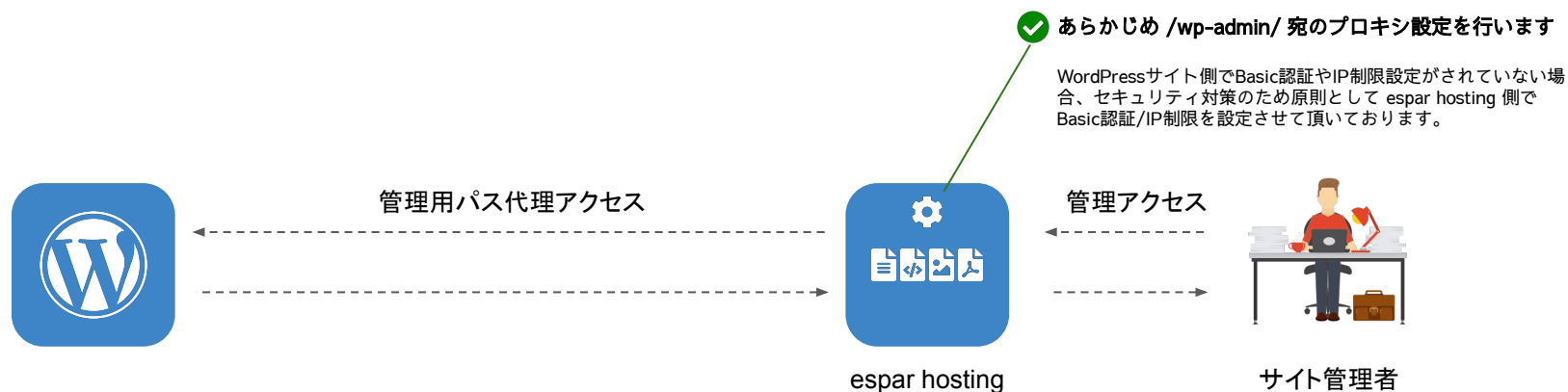
Proxy



サイト内検索など WordPress に直接アクセスする必要がある場合、当該アクセスに限ってユーザに代わり espar hosting が WordPress 本体にアクセスし、取得内容をそのままユーザに返すプロキシ (代理アクセス) を行います。ユーザが直接 WordPress サーバにアクセスすることはありません。

プロキシは WordPress への直接アクセスを許容する仕組みであるため、できるだけ無くすことが推奨されます。(フォームを静的ページで実現する仕組みを採用したり、外部サービスを使用するなど)

Admin

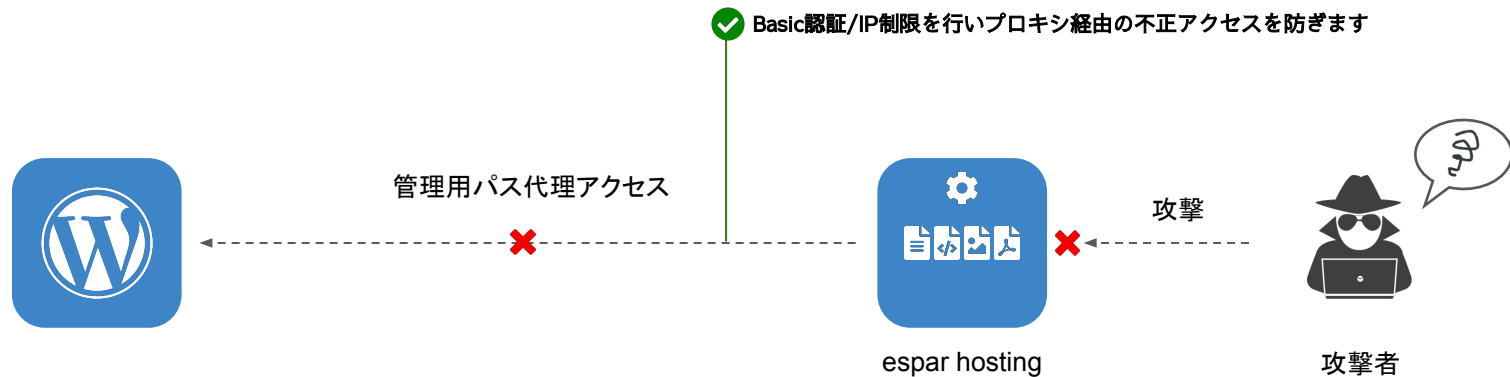


/wp-admin/ など WordPress の管理画面アクセスにもプロキシ（代理アクセス）を使用します。ただし、管理画面にはサイト管理者のみがアクセスできるよう、espar hosting で IP アドレス制限や Basic 認証を設定します。

Table of contents

1. 基本構成と導入プロセス
2. 静的化と公開サーバへの転送
3. 公開サーバでの制約・留意事項
- 4. セキュリティ**
5. 導入時のポイント

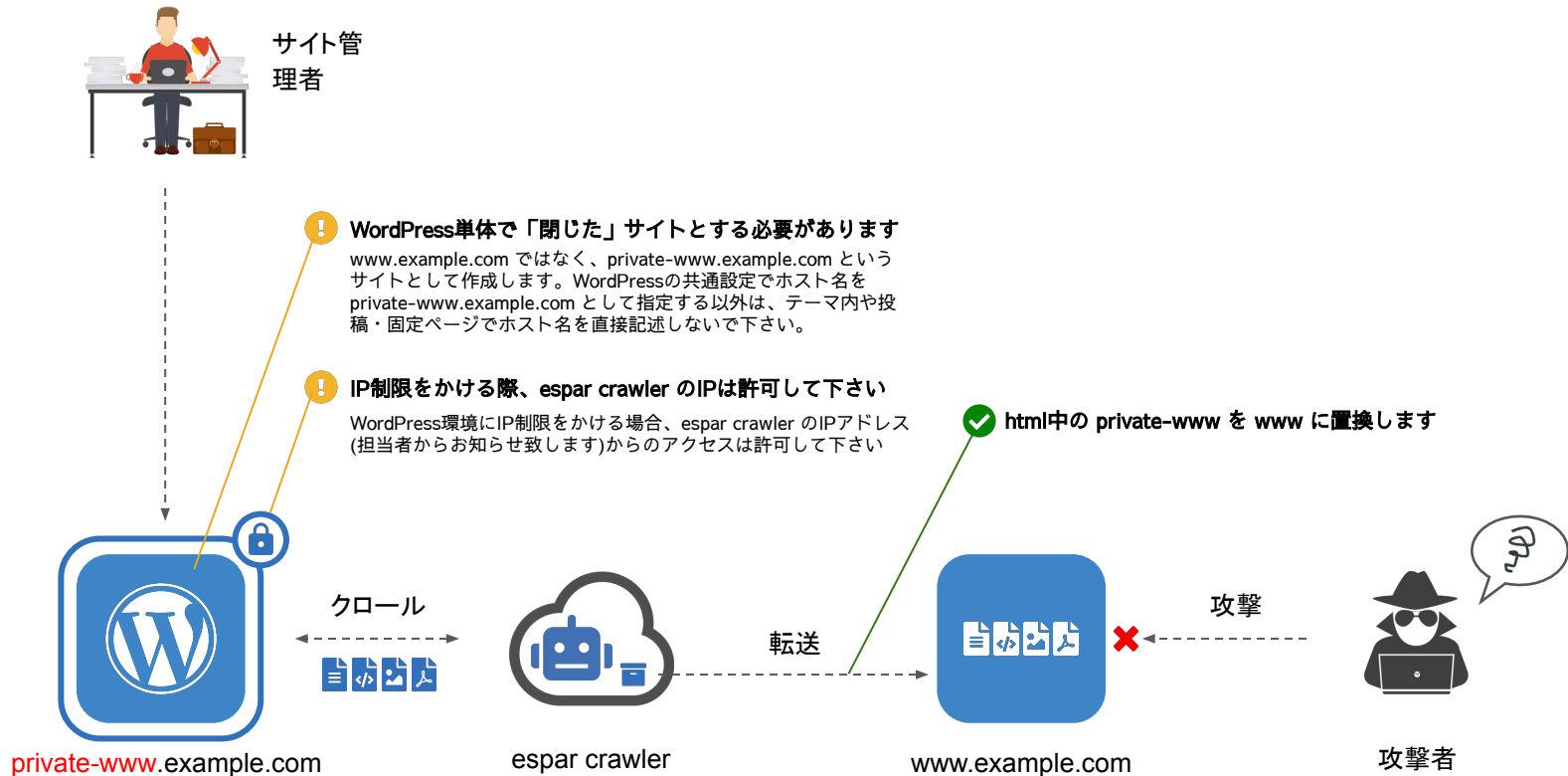
Preventing attack



espar hosting には、静的なファイルのみが存在します。データベース・フレームワーク・サーバサイドスクリプト言語 (perl, php, ruby...etc) などは存在しません。よって、悪意ある第三者からの http/https 通信による攻撃はすべて無効化されます。(espar hosting は全て 404 エラーで応答します)

また管理画面へのアクセスにはプロキシ設定がされていますが、espar hosting 側で Basic 認証や IP アドレス制限が施されており、悪意ある第三者は管理画面にアクセスすることができません。

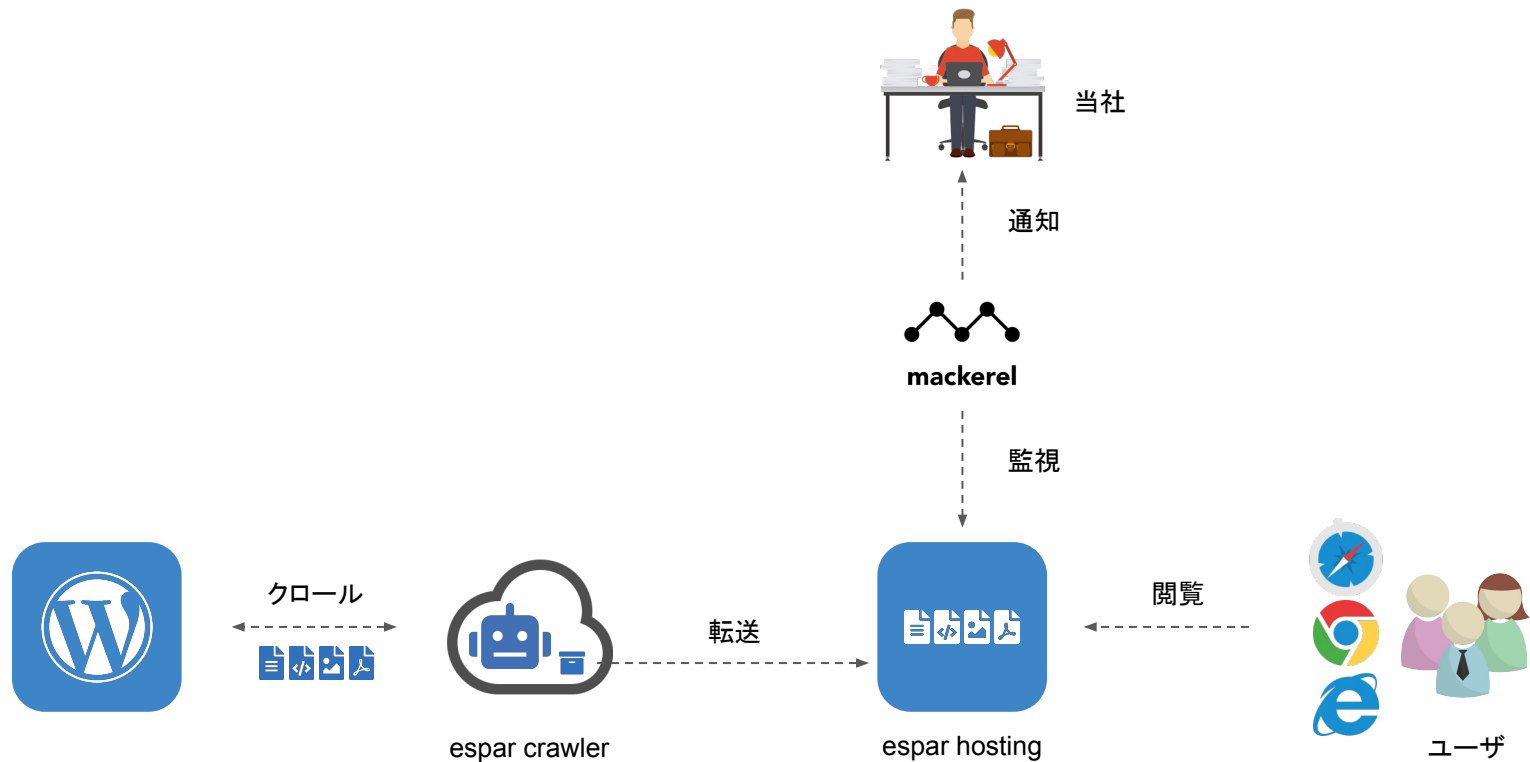
Hide admin URL



新規サイトの場合は、WordPress 側に公開ホスト名と異なる別ホスト名を設定することが推奨されます。さらに、Basic 認証と IP アドレス制限をかけることで関係者以外が WordPress 側にアクセスできない構成とすることができます。（サイト管理者と espar crawler のアクセスのみ許可）

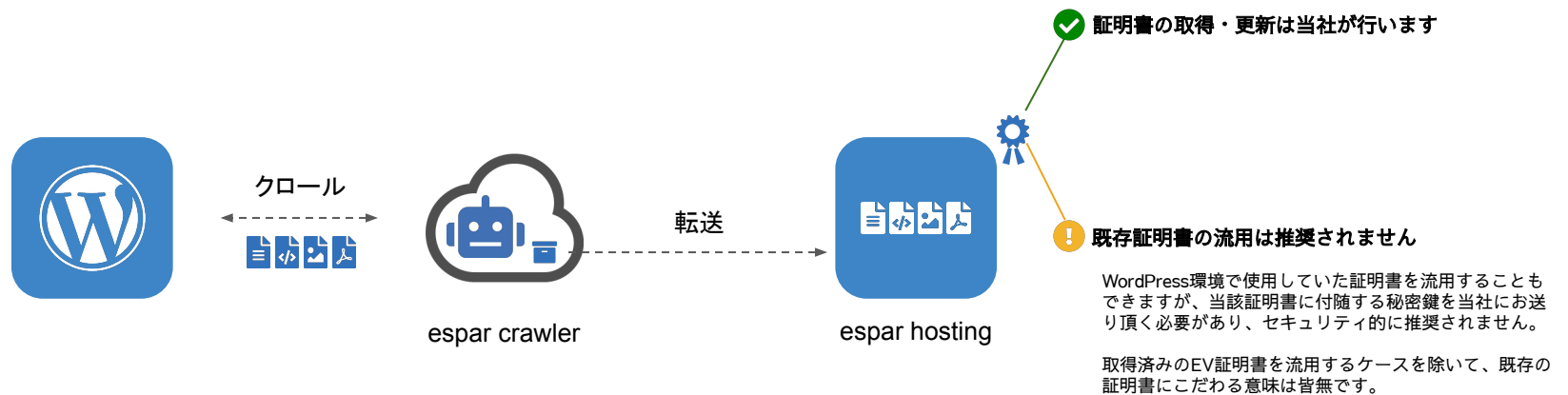
本構成により、第三者による不正なアクセスを理論上全て無効化することができます。悪意ある攻撃者には www.example.com が WordPress で作られたサイトに見えますが、関係者が情報を漏えいしない限り本当の WordPress サーバがどこに存在するか分からず、辿り着くことができません。

Monitoring



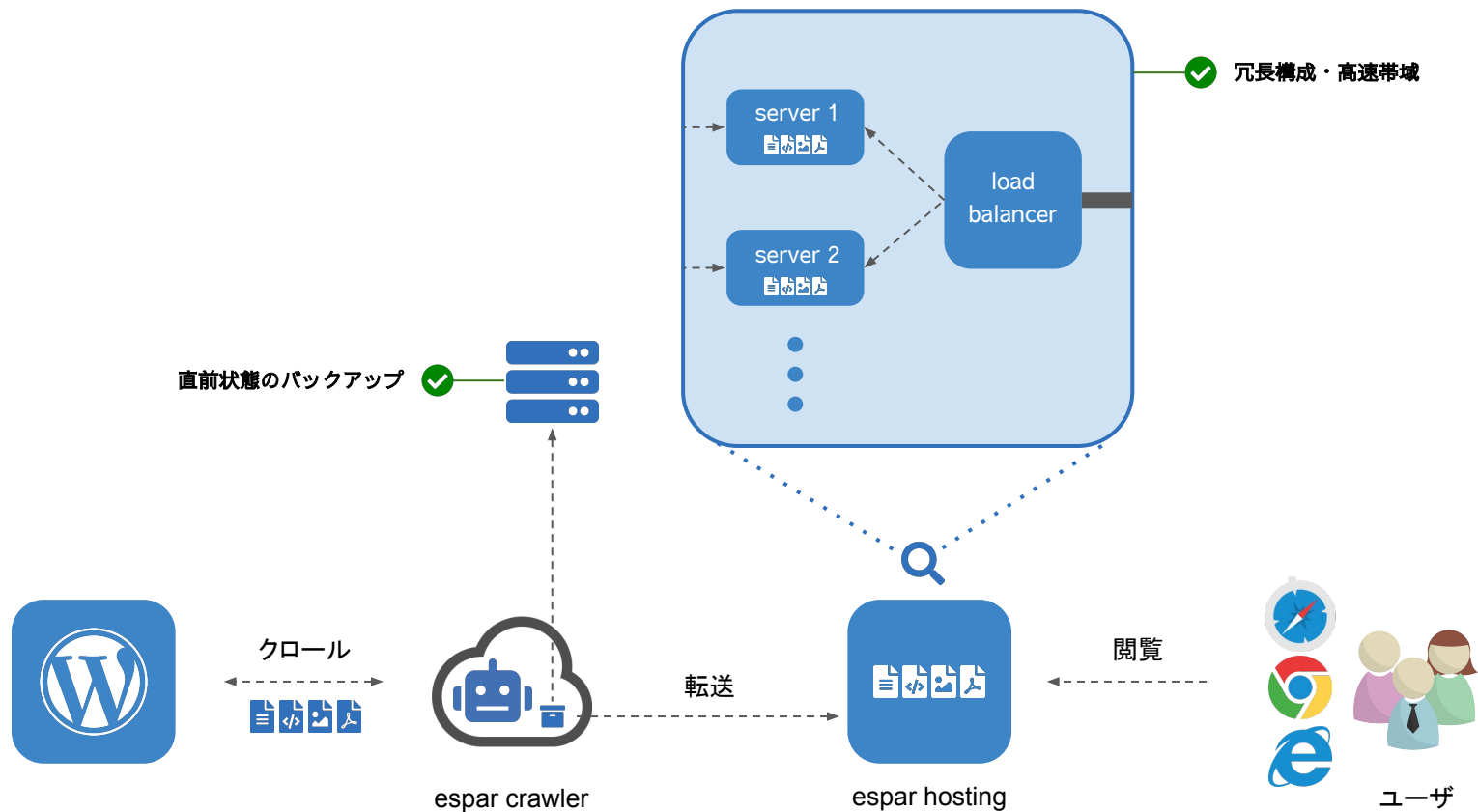
定評ある監視サービスを使用してサイトの公開状態を常に監視しています。負荷の急増や応答不可状態を検出した場合は当社に通知され、早急に回復処理を行う体制を確保しています。

Certification



常時SSL化の為の証明書取得・更新は当社が行います。元WordPressサイトに証明書が設置されていた場合、以後証明書の更新は不要となります。

Backup / Redundancy



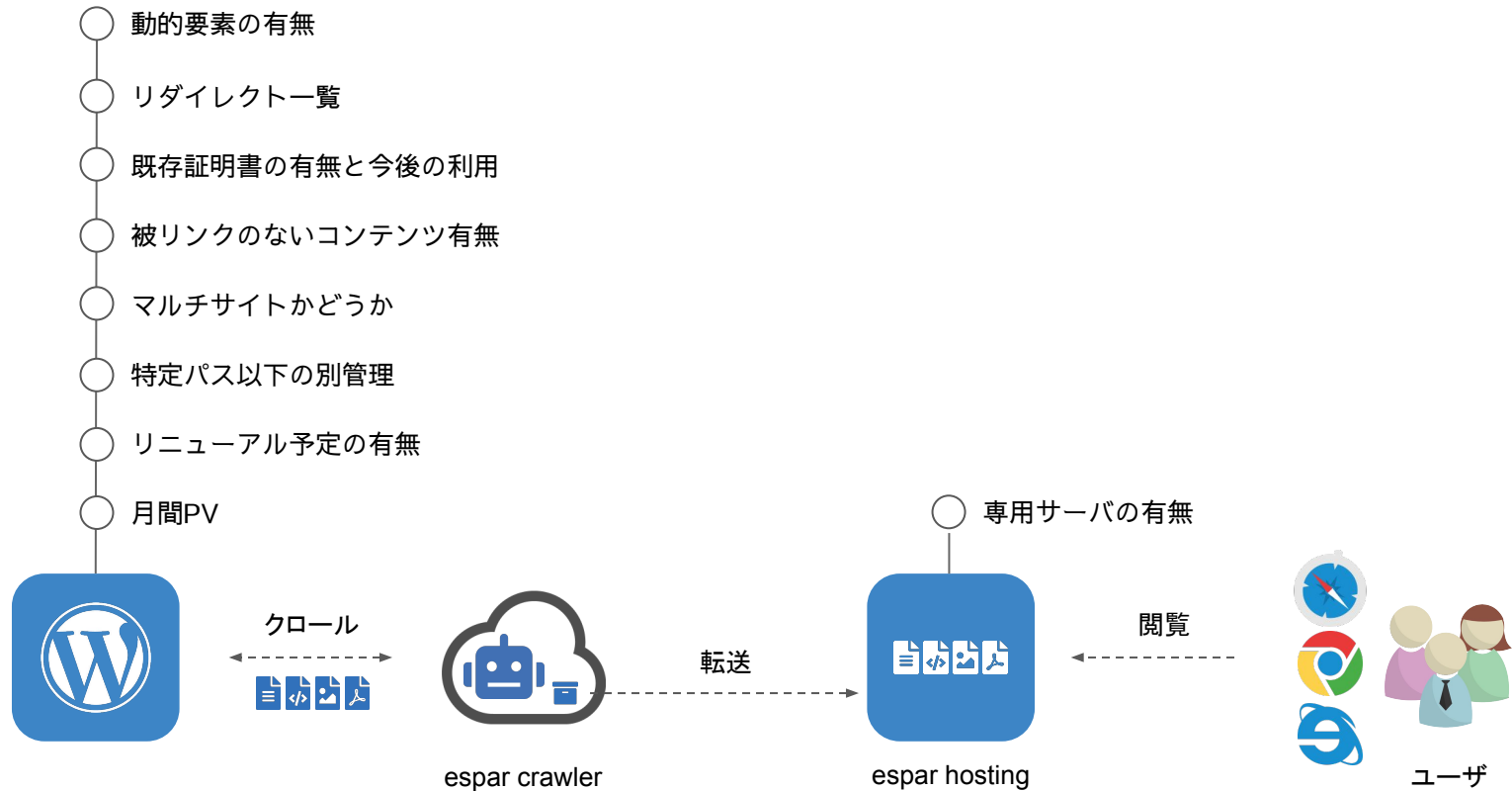
espar hosting は単一のサーバではなく、ロードバランサーによる負荷分散機構を備えています。またアクセス急増時に転送速度が落ちないように十分な上流帯域を確保しています。

また、静的化されたファイル群は物理的に離れた別のストレージにバックアップ保管しています。espar hosting が万が一落ちてしまった場合でも、サイトの公開状態を速やかに復旧できる体制を整えています。

Table of contents

1. 基本構成と導入プロセス
2. 静的化と公開サーバへの転送
3. 公開サーバでの制約・留意事項
4. セキュリティ
5. 導入時のポイント

Check Points



導入時にWordPress環境や現状の運用についての情報が必要となります。可能な範囲で事前の情報共有をお願い致します。

Check Points

	解説
動的要素の有無	問い合わせフォームや検索フォームなど、ユーザのリクエストに応じたリアルタイムな応答が必要な場合、プロキシ機能でWordPressにリクエストを転送する必要があります。プロキシはセキュリティ的理由から使用を避けることが推奨されますので、問い合わせフォームは espar form の採用を御検討下さい。
リダイレクト一覧	リダイレクトは導入後、全て公開サーバ側で行う必要があります。個別に設定が必要ですのでリダイレクト一覧の御用意をお願いします。(.htaccessファイルを直接提供頂く形で可)
既存証明書の有無と今後の利用	常時SSL化の証明書を既に御利用の場合、流用可能です。秘密鍵や証明書など関連ファイルをご提供頂きます。ただし通常はEV証明書でない限りは不要です。esapr側で料金込みの証明書取得・更新を行いますので、証明書費用の削減が可能となります。
被リンクのないコンテンツ有無	WordPressサーバの特定パス配下を、(A)PDF資料や動画の置き場所 (B)顧客とのファイルの受け渡し (C)別途制作したhtmlファイルの設置 (D)他サイトからの外部参照に利用するなどファイル置き場として使用している場合、当該ファイルを都度クロール対象にする必要があります。
マルチサイトかどうか	複数のWordPress環境が存在する場合、各WordPress環境が1サイトとしてカウントされますので、個別に静的化料金が必要となります。
特定パス以下の別管理	WordPressサーバの特定パス配下を、別の制作会社様が保守・管理されている場合、当該制作会社様にも espar を操作して頂く必要があるなど影響が及ぶ可能性があります。
リニューアル予定の有無	デザインやレイアウトが大幅に変わると再度初期費用が必要になります。近々のリニューアル予定がある場合は、リニューアル後の導入をお勧めします。
月間PV	10万PVを超える場合、追加トラフィック量が発生する可能性があります。
専用サーバの有無	弊社ホスティングサーバ(espar hosting)を使用しない場合は、別途構築費用が発生致します。